



共生社会システム学会ニュースレター

The Association for Kyosei Studies News letter

2026年9月4日発行 第41号

目 次

1. 2026年大会（白梅学園大学）の開催について	1
2. 運営委員会報告	3
3. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ	4
4. 運営委員会事務局だより	5
5. 会費納入のお願い	5

1. 2026 年度大会（白梅学園大学）の開催について（第 3 報）

設立20周年となる2026年度大会は、白梅学園大学にて、以下の要領で対面にて開催いたします。昨年に引き続き記念シンポジウム及び特別講演を開催します。会員各位の積極的なご参加をお願いします。

・日程：2026年10月10日（土曜）～11日（日曜）

・会場：白梅学園大学（東京都小平市）

・プログラム

10月10日（土曜）13:00～ 特別講演 小玉重夫氏（白梅学園大学学長）

「ポストヒューマニズムと新しい子ども学」

14:00～ 学会設立20周年記念第2回シンポジウム

「環境の危機と共生社会 一人と自然との共生を求めて」

18:30～ 懇親会（I棟3階 生協食堂）

10月11日（日曜）9:00～ 一般報告

13:00～ 総会

14:15～ 会員企画ワークショップ

○参加費：正会員 2,000円、学生会員 1,000円、非会員(学生以外) 2,500円、学生非会員 無料
※非会員の方々も、10日の特別講演・シンポジウムは無料で参加できます。

○懇親会費（予定）：一般（正会員ほか） 5,000円、学生 2,000円

・会場は白梅学園大学のJ棟（正門を入り、直進して右側）です。

[白梅学園大学へのアクセス](#)

[アクセスマップ](#)

[キャンパスマップ](#)

大会に参加される方は下記のフォームにご記入のうえ、送信をお願いします。共同発表の方も
お一人ずつ登録をお願いします。

[大会参加フォームへのリンク](#)

ウェブ上での参加登録は、**9月26日(土曜)**を締め切りとします。締め切り以降は、当日会場で手
続をしてください。いずれにしても、参加費の支払いは当日会場にてお願いします。

対面での開催ですが、各種資料はウェブより入手していただけます。大会の一週間前をめぐり、
ダウンロードサイトのパスワードを、ご記入いただいたメールアドレス宛にお送りします。

会場ではWiFiの利用が可能です(eduroamが利用可能な方は、できるだけeduroamを使うようにし
てください)。資料は当日もダウンロードできますが、事前に資料を見ていただくことで議論が深
まります。

[学会ウェブサイト2026年大会のページ](#)

- ・キャンパス内では当日食堂・売店が休業のため、食事は駅周辺やコンビニでの確保をお願いします
(上記アクセスマップにコンビニの記載があります)。
- ・会場はゴミ箱が使えなくなります。受付でゴミ持ち帰り用の袋を配布いたします。
- ・大会開催が連休と重なることから、遠方より参加される方には宿泊先を早めに確保されること
をお勧めします。中央線、西武線沿線のホテルが便利です。
- ・大会に関するお問い合わせは[学会事務局](#)までお願いします。

学会設立20周年記念第2回シンポジウム

「環境の危機と共生社会 一人と自然との共生を求めて―」

座長：古沢広祐（國學院大學）

教育グループ 代表：秦 範子（都留文科大学）

「『共生』と『共存』の視点から環境教育の役割を問い直す」

哲学・倫理グループ 代表：片山善博（日本福祉大学）

「他者性の危機―環境破壊、紛争、AIから逆照射される人間存在―」

環境思想グループ 代表：太田和彦（南山大学）

「農をめぐる〈共生〉を関係性の再構築から考える」

農業経済グループ 代表：横田茂永（静岡県立農林環境専門職大学短期大学部）

「国際情勢の変容と食料システム―共生型食料システムに向けた実践―」

20周年記念・第2回シンポジウムへのお誘い

記念シンポジウム座長：古沢広祐

自然、様々な他者、そして「人間ならざる存在」と、私たちはどう生きていくのか？

気候変動、生物多様性の喪失、AIとの共存、食料・資源をめぐる危機……私たちを取り巻
く事態は近年急速に深刻化しています。分断化する時代において、AIをはじめとするテク
ロジーの急速な進展は、まさに「人間とは何か」「他者とは何か」という根源的な問いを私

たちに突きつけています。こうした時代に、「共生」をあらためて問い直すことには、どのような意味があるのでしょうか。

共生社会システム学会は、2026年に設立20周年を迎えました。この節目に、2025・2026年度の2カ年・2回にわたる記念シンポジウムを企画しました。第1回では「分断の危機と共生社会一人と社会の多様性を求めて―」をテーマに、人間社会における分断と共生の可能性を考えました（学会誌に詳細内容掲載）。第2回となる今回は、その視野を人間社会とその外へと広げ、「人と自然との共生」を広い視野から考えます。

シンポジウムでは、若手・中堅会員を中心とする「教育」「哲学・倫理」「環境思想」「農業経済」の4グループが、それぞれの専門領域から報告して、問題に迫ります。

教育グループは、クマ問題や情報・コミュニケーションを手がかりに、「共生」と「共存」の意味や環境教育の役割を問い直します。哲学・倫理グループは、「他者性の危機」の視点から環境破壊、紛争、AIをめぐる問題などについて、他者性から「人間存在のあり方」に迫ります。

環境思想グループは、茶栽培や種子管理を題材に、農をめぐる人間と非人間関係を捉え直し、「共生」を人間中心主義の外側へと開いていきます（関係性の再考案）。農業経済グループは、水田農業や社会的農業を手がかりに、環境と食料をめぐる現実的な課題から、共生型食料・農業システムの可能性を考えます。

これらの多様な報告と議論を貫くのは、「共生」を人間同士の関係だけに閉じることなく、自然、生態系、そして人間ならざる存在との関係まで含めて捉え直すという問題意識です。そして人間中心の社会を超えて、どのような関係性と社会を構想できるのかへの問題提示（挑戦）です。

設立20周年を、過去20年の歩みを確認するだけでなく、これからの20年を切り拓くための新たな問いを共有する機会にしたいと思います。個別専門分野を越えて、ぜひこの大きな問いを共に考えてみましょう。

2. 運営委員会報告

2025年度第2回運営委員会が下記の日程で開催されました。

日時： 2026年5月30日(土) 17:00～19:00

場所：オンライン

出席者（敬称略）：柏，朝岡，植木，岡野，武谷，桑原，横田，松木

欠席者（敬称略）：オブヒュルス鹿島

報告事項：

- 1) 入退会について、松木総務担当理事より報告があった。
- 2) 学会誌第20巻の投稿論文およびシンポジウム論文の入稿状況について、桑原編集委員長より報告があった。2026年大会では事前にシンポジウム論文の準備を進めていただくこと、また投稿論文の締め切りを予定通り11月1日とすることとした。
- 3) 2026年大会の会場準備状況について、朝岡大会実行委員会委員長より報告があり、小平市に特別講演とシンポジウムについての後援を申請することとした。
- 4) 20周年記念出版について、植木副会長より報告があり、出版と市民向けセミナーをリンクさせるとともに、セミナーを学会大会初日に試行する方向となった。

審議事項：

1) 学会誌のワークショップ報告および研究会報告論文について

大会でのワークショップ募集の際に、学会誌のワークショップ報告の詳細を、締め切りを含めて提示することとした。

研究会報告論文について、1本1本が独立した論文として書かれるべきことを、執筆依頼の際に明記することとした。

2) 研究会助成(2025年10月-2026年3月)の判定について

講師旅費の申請について承認した。今回は領収書が未添付だが、今後は支払いの記録が残るように依頼することとした。

3) 役員の改選について

2026年大会における役員の改選について、現理事より提示する案を検討した。

4) 次回開催日程

2026年9月19日（土）17：00～の開催とした。

3. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

(1) 第20巻の発行について

『共生社会システム研究』第20巻は近日中に発行予定です。投稿論文や書評に加え、2025年度大会（大和大学）の特別講演、学会設立20周年記念シンポジウムに基づく論考を掲載します。また、新たな試みとして、学会内研究会の成果を広く共有するための研究会報告論文を掲載します。なお、第20巻は第19巻と同様に、電子媒体として発行（J-Stage及び学会ウェブサイトに掲載）いたします。

(2) 第21巻への投稿原稿の募集

『共生社会システム研究』第21巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿ください。締切日は2026年11月1日（日）です。昨年より1か月早い締切日となりますのでご注意ください。

締切日を過ぎての投稿は、次巻（第22巻）掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おきください。また、所定の字数を超過している原稿は受け付けず、修正を求めます。締切日直前の投稿だと修正が間に合わず、次巻（第22巻）掲載の原稿となりますのでご注意ください。

投稿にあたっては、指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め、当学会ウェブサイトに掲載された新しい投稿規定、執筆要領をよく読んで原稿を作成し、投稿されますようお願い申し上げます。第18巻以前の巻末に収録されている投稿規定と執筆要領は、改定前のバージョンですのでご注意ください。最新版は、[学会ウェブサイト](#)の下部リンクから閲覧できます。

原稿の送り先：

日本獣医生命科学大学 応用生命科学部

『共生社会システム研究』編集委員長 桑原考史

E-mail: takashik☆nvl.u.ac.jp（☆を@に変えて送信してください）

※今後、編集委員長が交代した場合は、新委員長宛て（アドレスを[学会ウェブサイト](#)に掲載します）にご送付ください。

4. 運営委員会事務局だより

2026 年の大会は東京都小平市の白梅学園大学にて 10 月 10 日(土), 11 日(日)に開催します。大会参加の申し込みを始めましたのでどうかご登録ください。連休ですので, 宿泊先は早めの確保をお勧めします。

大会では, 白梅学園大学学長の小玉重夫先生に, 子ども学の最前線について特別講演をしていただきます。2 年連続の記念シンポジウムは, 昨年の成果を受け継いでさらに議論を深めるべく, 現在グループごとに準備をしていただいています。当日フロアからの積極的なご議論をよろしくお願いいたします。

※事務局では会員の皆様からの情報発信を受けつけています。会員の活動紹介や, 会員が執筆・翻訳した著書・論文の紹介等, 当ニュースレターやメール配信で共有しますので, 運営委員長の岡野 (i-okano☆cc.tuat.ac.jp)までお気軽にご相談ください。(☆を@に変更して送ってください)

5. 会費納入のお願い

2026 年度会費の納入をお願いいたします。会費は, 一般会員 6,000 円, 学生会員 3,000 円, 賛助会員 20,000 円となっております。2025 年度以前の会費を未納の方は, 未納分も含めて納入をお願いいたします。

◆郵便振替: 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会

◆ゆうちょ銀行への振込:

(店名) 〇一九 (ゼロイチキュウ) (店番) 019

(預金種類) 2 当座預金 (口座番号) 0372850

◆三菱 UFJ 銀行への振込:

(金融機関名) 三菱 UFJ 銀行 (支店名) 目黒駅前支店 (口座番号) 1408018

また, 住所, 所属先, メールアドレスに変更がある場合は, 連絡をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第41号 2026年9月4日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-0051 東京都府中市栄町1丁目5-2 池田ビル203号室

日本環境教育研究所内

メールアドレス: kyosei.syakai.gakkai@gmail.com